

エリアウェーブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email : hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「コミュニケーションはあいさつから」

小学生の娘と登校班の集合場所で班員が来るのを待っていると、別の小学校に通う2人の兄弟に毎朝会います。下を向きながら歩いているのですが、私たちとすれ違うときには、「おはようございます」と必ずあいさつをしてくれます。とても気持ちのいいものです。

はじめ、彼らに会ったのは今年の四月です。日頃からつきあいがあるわけでもない、見ず知らずの私たち親子に向かって自然にあいさつをしてくれる彼らに触発され、私も「おはよう」とあいさつを交わすようになりました。本当なら大人である私の方から声をかけてもよかったのに彼らから教えられました。

.....

おはようございます、いただきます、
 ごちそうさま、いってきます、
 いってらっしゃい、こんにちは、
 ありがとう、ごめんなさい、
 ただいま、おかえりなさい、
 こんばんは、おやすみなさい など

普段自分から言っている言葉がどのくらいあるのでしょうか。あいさつはキャッチボールのように自然と言葉のやりとりが生まれます。コミュニケーションをとるきっかけにもなり、人間関係が形成されます。私が育った頃は、近所の人にあいさつをするのは当たり前、何気なく言葉を交わすことができているように感じます。それは、育ってきた家庭や地域にもゆとりがあり、自分の子どもだけでなくよその子どもにも関わっていくという温かい気持ちがあったからかも知れません。

「あいさつ運動」の取り組みは地域や学校でも取り組まれています。自然にあいさつができ

る社会をつくるためには、家庭の力も影響します。子どもは親を見て育つと言われます。家庭での習慣は社会へ出たとき、子どもの行動に直接結びつきます。まずは、大人が手本となりあいさつを進んですることが大切だと思います。



あいさつにもいろいろな言葉がありますが、「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子どもに育ててほしいものです。そのためには、よいことはしっかりほめ、悪いことはきちんと叱る姿勢をもつこと、相手の立場に立って考えさせること、家族の中でも「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるように心がけていくことも大切なことです。

今、家庭だけでなく地域や学校が連携して子育てをしようとして各地で様々な取り組みが行われています。時には、子供が悪いことをしていたら、地域の方や先生がきちんと「親のように」叱ってあげられるようにしていく必要があります。あいさつができない、コミュニケーションをとるのが苦手な子どもが増えていくことは、これからの未来にも大きな影響を及ぼしかねません。



いま以上に、家庭、地域、学校が一丸となって子育てに取り組んでいきましょう。

峡東地域教育推進連絡協議会でも「あいさつ運動」を活動方針として、呼びかけています。

今年も残すところわずかとなりました。
 正月を迎える準備をしながら、この一年に思いをめぐらすのもこの時季ならではですね。
 健康にはくれぐれもご留意いただき、良い年をお迎えください。

「子育て支援リーダー養成講座」

社会教育課の家庭教育事業として今年度スタートした「子育て支援リーダー養成講座」が、10月に終了しました。この講座は、今年から3年間、県立大学の人間形成学科との協同で、家庭教育・子育て支援の歩みと課題、地域の子育てリーダーとしての役割について理解を深め、地域で抱える課題・様々な事案に対応し、地域で活躍する人材の育成を目指すものです。県内から、子育て支援に携わっている方々が受講し、峡東地域では11名が修了証をいただきました。全7回の講座には、ワークショップが組み込まれており、実践的な学びもたくさんありました。また、地域ごと8つのグループを編成し、地域子育て支援者交流会に向けてのワークショップも行われました。

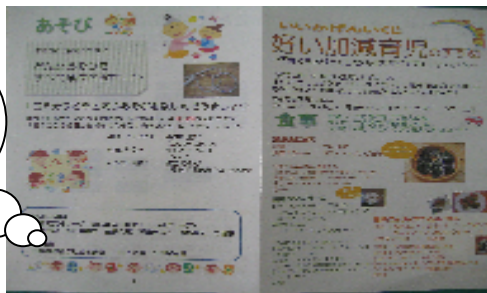
講座で学んだことを生かし、行政や子育て支援団体、ボランティアなど多くの人々をネットワークで結び、地域の子育て支援の充実をしてほしいと思います。

グループごとの地域子育て支援者交流会から



- 8月31日：児童館、支援センター、ファミリーサポートセンターの職員がそれぞれの職場での悩みや問題点を出し合い、アドバイスや状況分析をし、子育てに関しての話し合いを行いました。一つ一つの課題は大きく、事例についての対応策や、経験などを話す中で方向性を探ることができました。「このメンバーでこれからも横のつながりを持ちネットワークを作る」という意見が出ました。
- 9月2日：「手作り資料をどのようにしたら活用できるか？」を課題にすえて、食事・排泄・ことば・あそびの4領域から資料づくりをしました。実際に炊き込みご飯やタマゴボーロを作り試食したり、ことばについて関連する言葉や反対の言葉を受講者が考えたりしました。「好い加減育児のすすめ」と名づけられたこの資料は、保護者とのワークショップなどで活用できます。

肩の力を抜いて、簡単、楽しい、いい加減育児をしてみませんか？



おかあさん



おかあさんは よそのひとにあつたら
いつもほくのこと

「これうちのたからもの」という
ほく はずかしくなっちゃうよ
おかあさんは ほくがねるとき
いつも

「こもりうた うたってあげようか」という
「いいよ」といっても
「まあまあ そうえんりよしないで」
といて うたいながらねてしまう
ははのひに かあねえしょんをあげて
「ひゃくさいまで いきろよ」

といたら ないた

おかあさんは ほくのたからものだ

ちょっといい話

うち家では、子どもたちのことを「お宝ちゃん」と呼んでいます。それは「おかあさん」という詩に出会ったからです。はじめは照れくさかったけれど、今では主人も自然に「お宝ちゃん」と言っています。

子育て支援リーダー養成講座を受講していた保育士さんの話です。お母さんの愛情と子どもの素直な気持ちが詰まった詩に感動すると同時に、保育士さんの家庭の様子が目に浮かびました。

「ロボコンやまなし2010」で4連覇達成!!



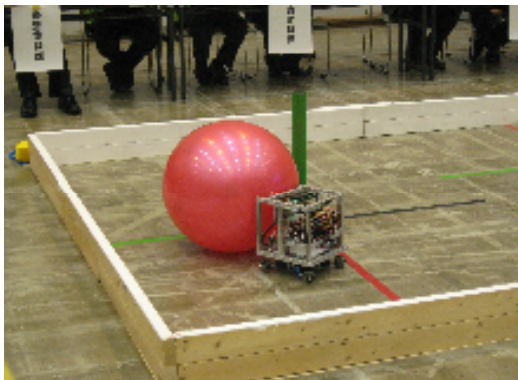
～産業技術短期大学校～

今年で18回目を迎えた「ロボコンやまなし2010」が11月20日(土) アイメッセ山梨に於いて開催され、本校電子技術科の学生が製作したロボットとソーラーカーが出場し、大学・一般の部で4年連続優勝を果たしました。県内外の大学や企業などが参加したこの大会で、ロボットが玉を転がしながら競技コースに沿ってゴールを目指す「自律型ロボットによる玉転がし競争」部門(大学・一般

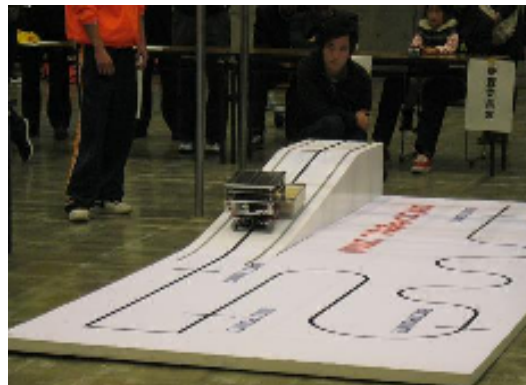
の部)では、11台が参加し、ほとんどのロボットが完走できない中、本校から出場した4台のロボット全てが完走し、優勝以下4位までを独占しました。

また、「ソーラーカー競技」部門では、本校からの5台を含む11台のソーラーカーが出場しました。この競技は、ソーラーパネルで発電した電気エネルギーにより、競技コース上を様々な障害物をクリアしながら走行し、ゴールまでのタイムを競います。本校では3台が決勝トーナメントに勝ち進み、わずかな差で優勝は逃しましたが、みごと2位から4位に入賞し、ロボット、ソーラーカーともに、高いものづくりの技術を示すことができました。

(ロボットによる玉転がし競技)



(ソーラーカー競技)



「まずは、相手に寄り添うことが大切です。」

～人権のための講演会より～

峡東地域教育推進連絡協議会では、11月18日に笛吹市いちのみや桃の里ふれあい文化館において、第3回「人権のための講演会」を開催しました。「児童虐待、モンスターペアレントへの対応」という演題で、弁護士の武藤高晴先生より、お話をいただきました。

106名の参加者は、武藤弁護士の話やケーススタディ、会場からの質疑に、うなずいたりメモをとったりしながら聴講していました。



Yamanashi high school

高校総体

5月1日、高等学校総合体育大会に向けての壮行会が開かれ、12日から熱戦を繰り広げる選手たちに応援委員会を中心とした全校生徒よりエールが送られました。

結果女子ではバレーボール・ハンドボール・体操・弓道・登山部が、男子ではハンドボール・剣道部などが健闘し、学校対抗では女子12位、男子32位という結果を得ました。



ろう学校との交流会

6月3日、本校でろう学校との交流会が行われ、ろう学校の生徒たちが本校の見学をしました。

部活動の見学では茶道部でお茶をたててもらい、抹茶をおいしく味わう姿も見られました。お互いの学校紹介をする中、聴覚障害についても学ぶことができ、互いの学校にとってよい交流の機会となりました。

梨窓祭



第42回 梨窓祭が6月23～24日に行われ、「未来へJump!～新しい青春Story」というテーマのもと開催されました。例年に増してどのクラスも素晴らしいクラス発表が行われ、全校が大きな歓声に包まれました。また、ろう学校もクラス企画でハッシュドポテトの販売をするなど学園祭での交流も行いました。



野球応援

7月11日、小瀬野球場にて1回戦桂高校と対戦しました。真夏の日差しが容赦なく照りつける中、本校生徒会、応援部、即席のチアリーダー達を中心となり、全校が一丸となった熱い声援を続けました。残念ながら結果は1回戦敗退となりましたが、本校野球部員の頑張りと全校が1つになった感動的な瞬間でした。

山梨高校生徒会の取り組み

- 「いきいきスクール一校一目標運動」として「挨拶はいつでも・どこでも・誰にでも」をスローガンに日頃の挨拶はもちろん、年8回の挨拶運動を実践しています。
- ゴミの分別及びペットボトルキャップの回収、リサイクルペーパーの回収、教室の節電の協力など「エコ運動」も積極的に行っています。
- 歳末助け合い募金などの各種募金、書き損じはがきの収集など、さまざまなボランティア活動に多くの生徒が参加しています。

